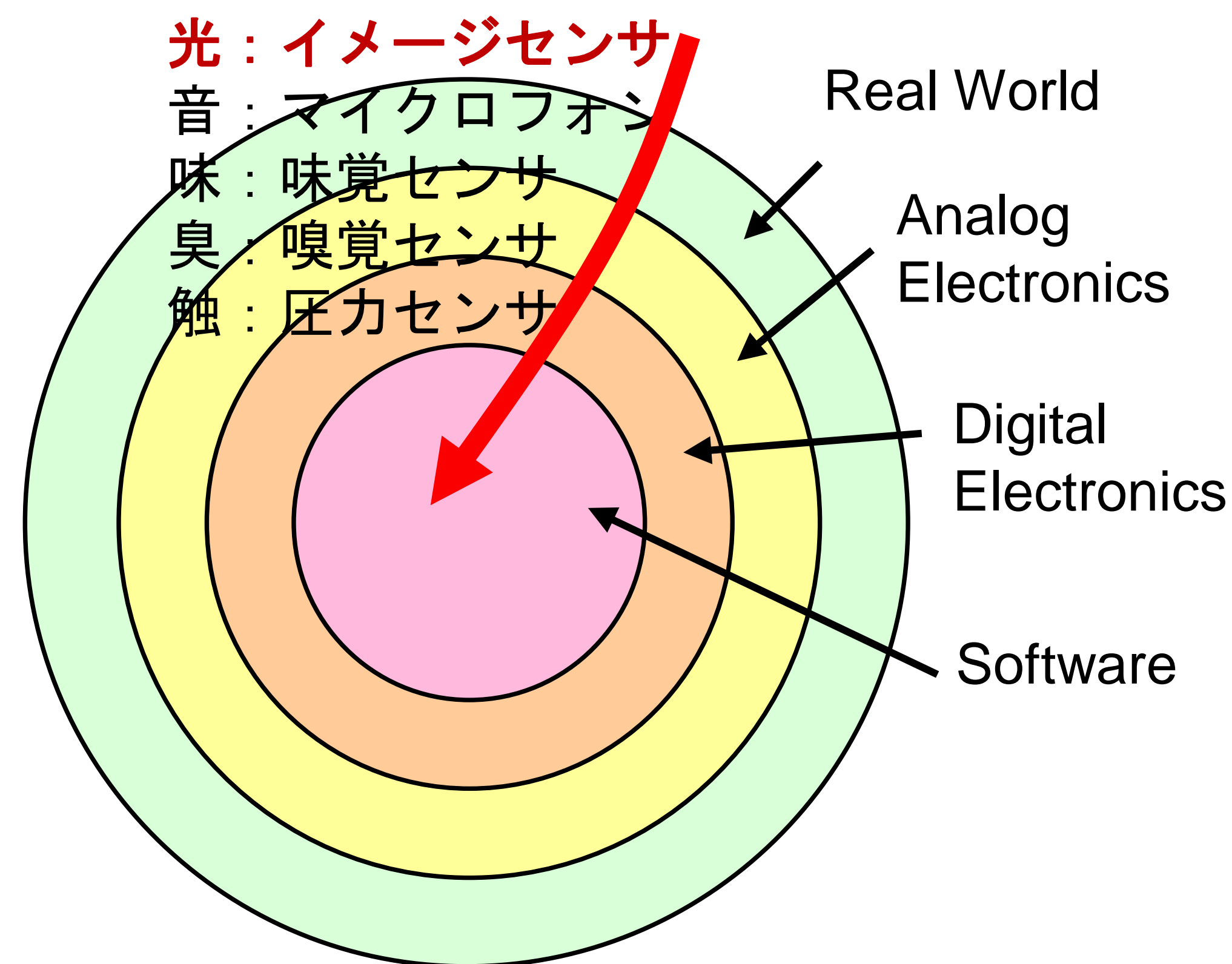


研究スタッフ

教授： 須川 成利、助 教： 黒田 理人

研究目的

新規な半導体集積回路・デバイス・プロセス技術の開発を基盤として、高度なヒューマンインターフェースシステムの実現を目指し、イメージセンサを中心とした様々な極限知能デバイスの研究に取り組んでいます。産学連携を軸にその具現化を推進しています。



主な研究テーマ

1. 高感度広ダイナミックレンジCMOSイメージセンサ

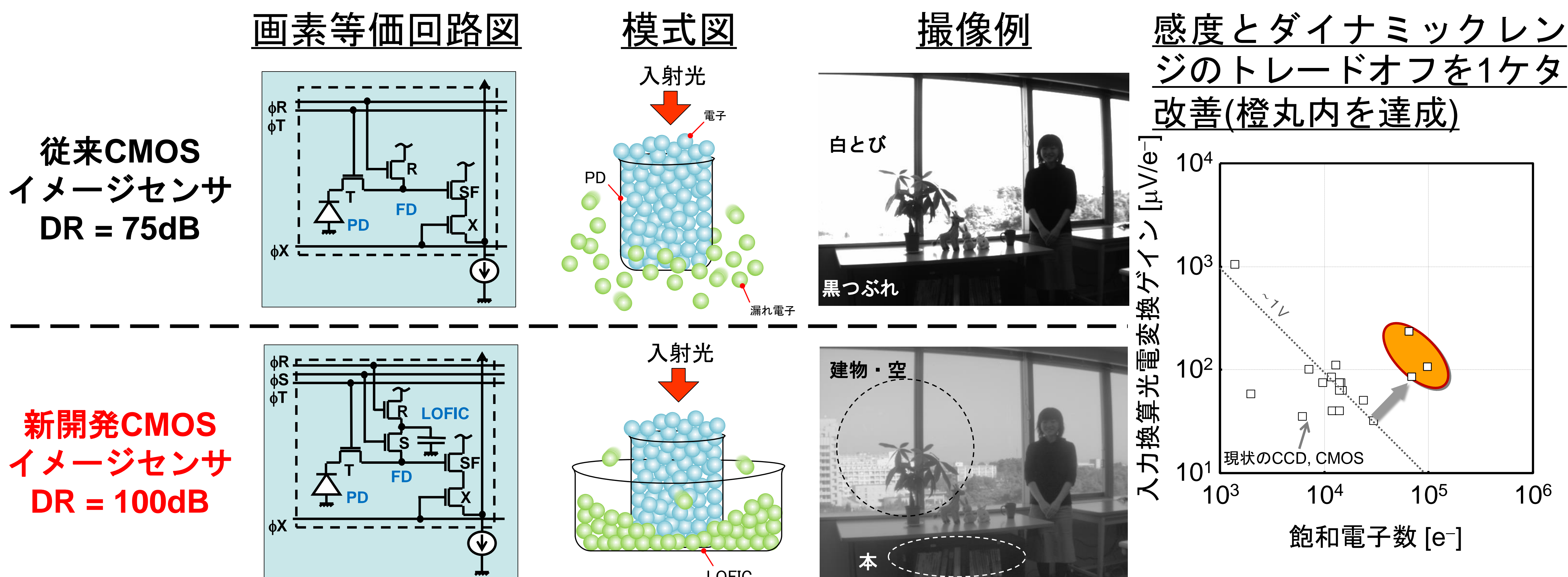
高画質デジタルカメラ、セキュリティ、医療、車載、FA、科学計測などの分野において、高感度で撮像照度範囲の広いイメージセンサが必要とされています。

埋込み型完全電荷転送フォトダイオードに隣接して横型オーバーフロー容量を画素毎に設置した、100dBのダイナミックレンジ性能を有するCMOSイメージセンサを開発しました。

本イメージセンサは、

- 露光時間を分割しない: 優れた動画撮像特性
- フォトダイオードを分割しない: 優れた解像特性
- 完全にリニアな光電変換特性: 良質なカラー画像特性
- 高感度化と広ダイナミックレンジ化のトレードオフを解消

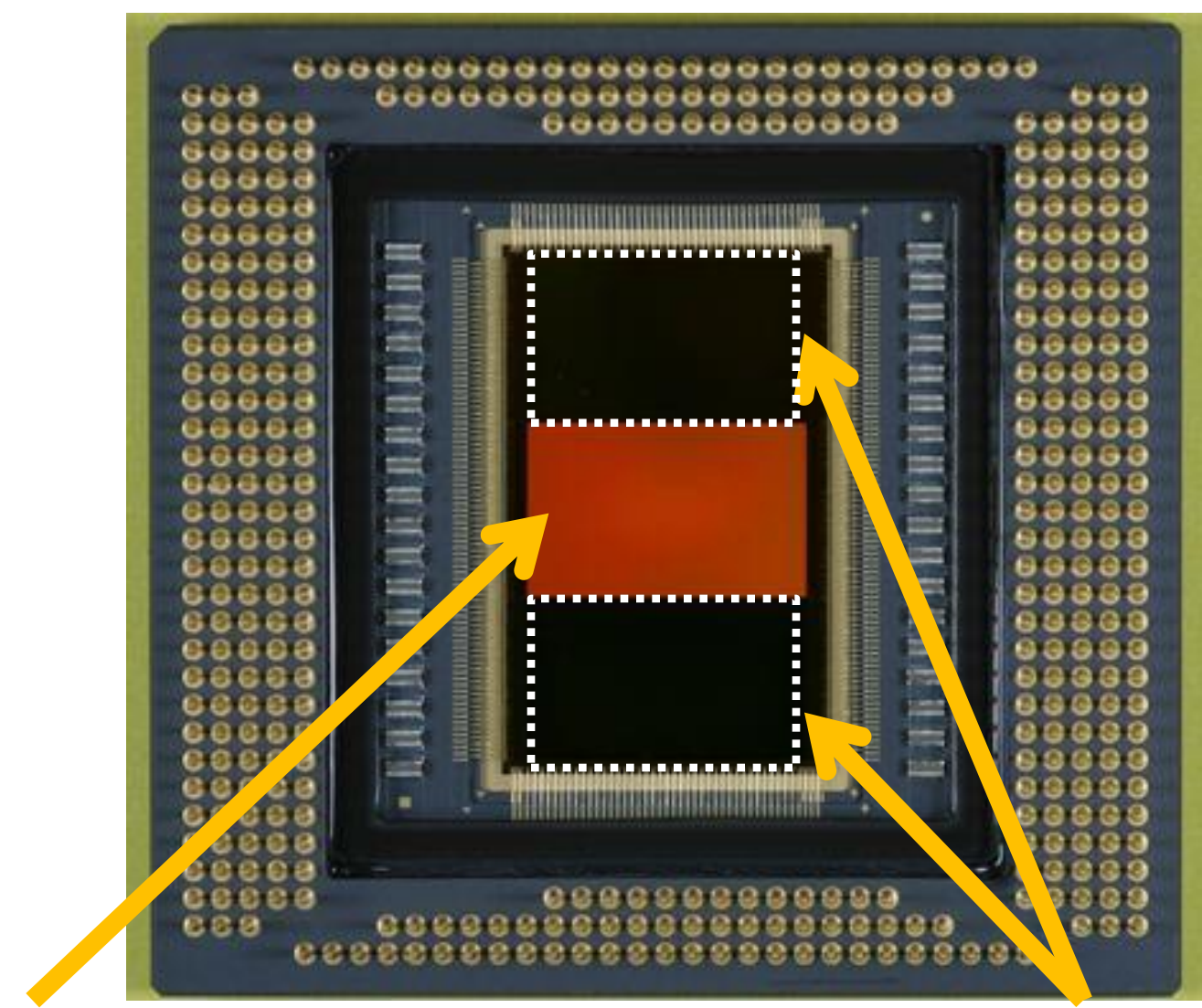
等、従来にない特長を持っています。2008年に民間企業から製品化されています。



2. 高速CMOSイメージセンサ

材料化学や生命科学、マイクロマシン技術の分野において100万コマ/秒を超える、超高速の撮影装置が必要とされています。

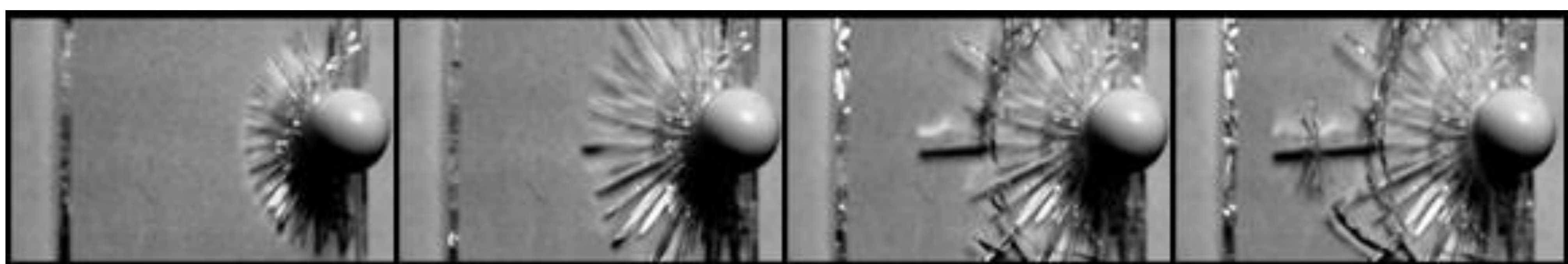
チップにメモリを内蔵し撮影中に内部メモリに電気信号を記録し、撮影後に外部に読み出す方式をとることで、本イメージセンサでは従来の20倍の高速撮影を実現することに成功しました。2012年に民間企業から高速ビデオカメラが製品化されています。



画素領域

メモリ領域

イメージセンサチップ写真と構成



0 μ s(1コマ目)

3 μ s(61コマ目)

6 μ s(121コマ目)

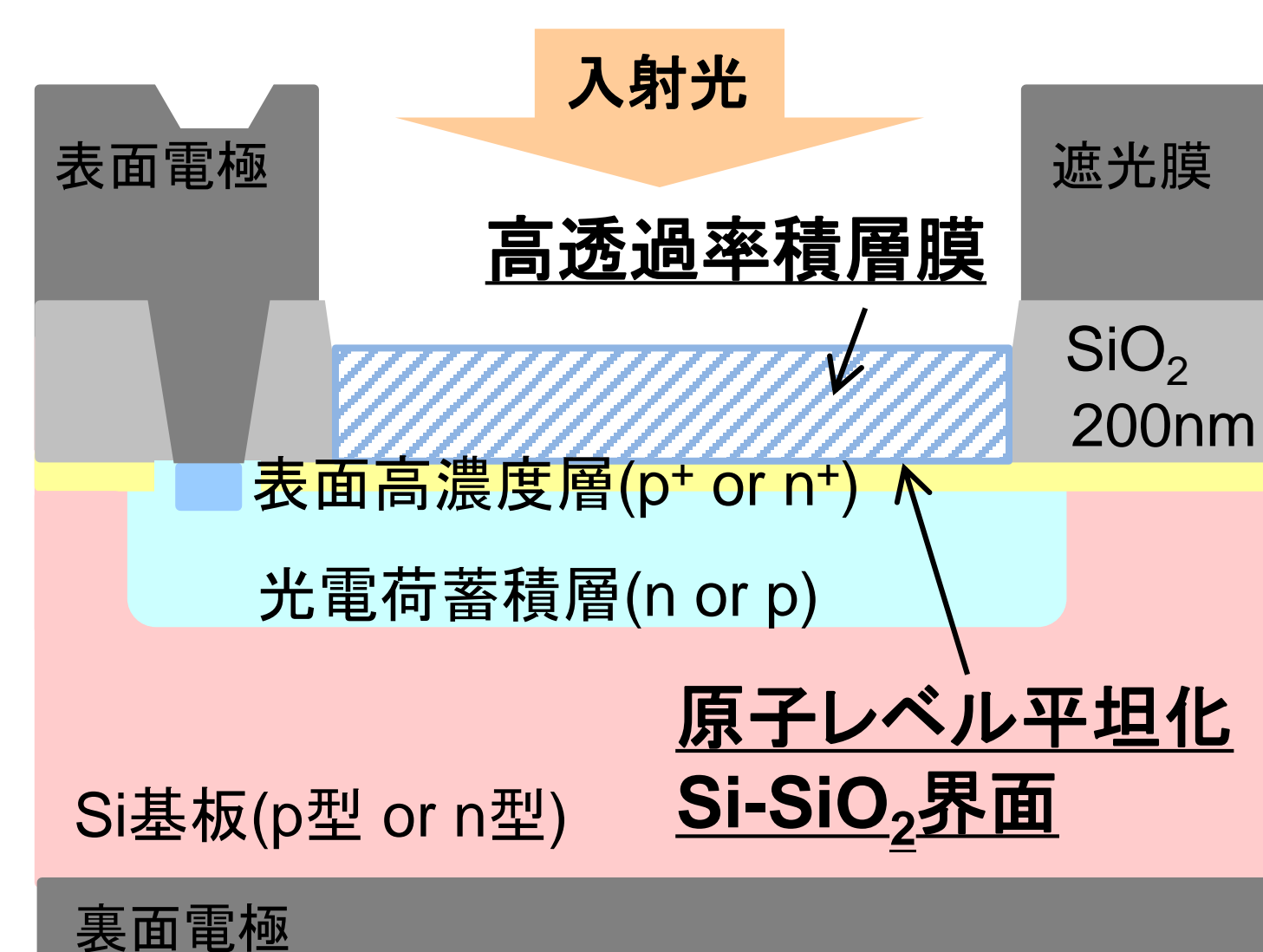
9 μ s(181コマ目)

撮像したガラス破壊の様子

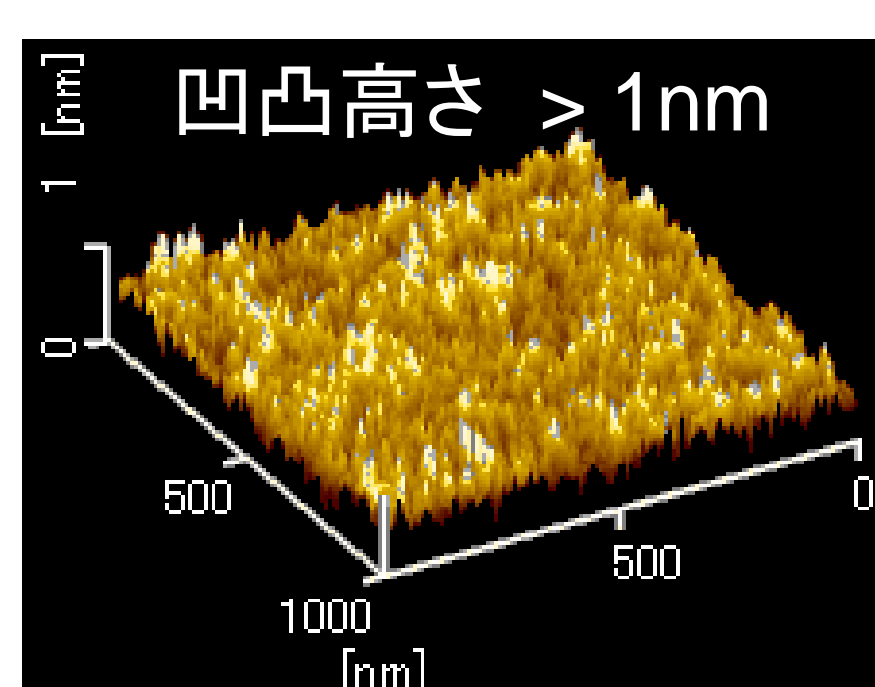
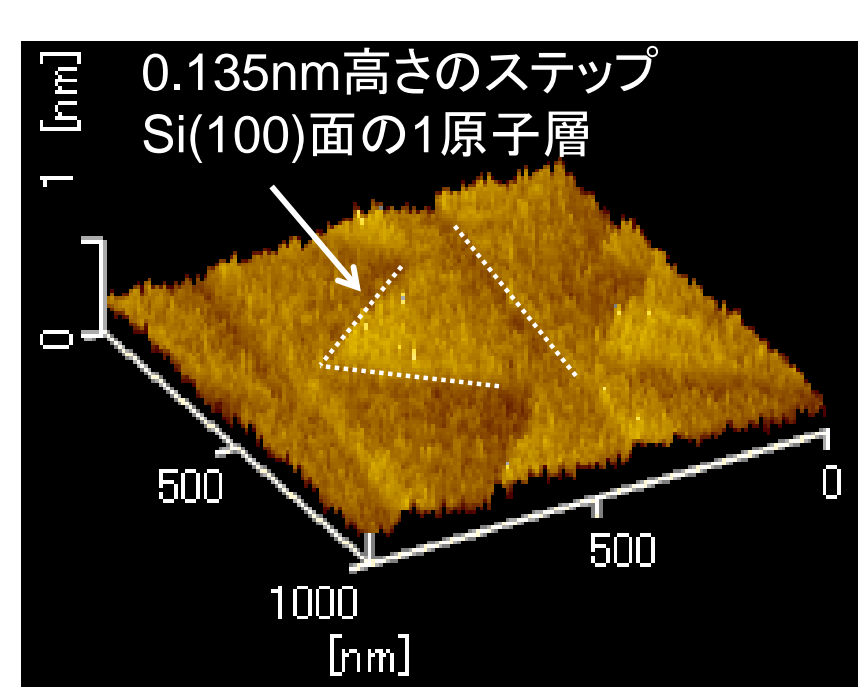
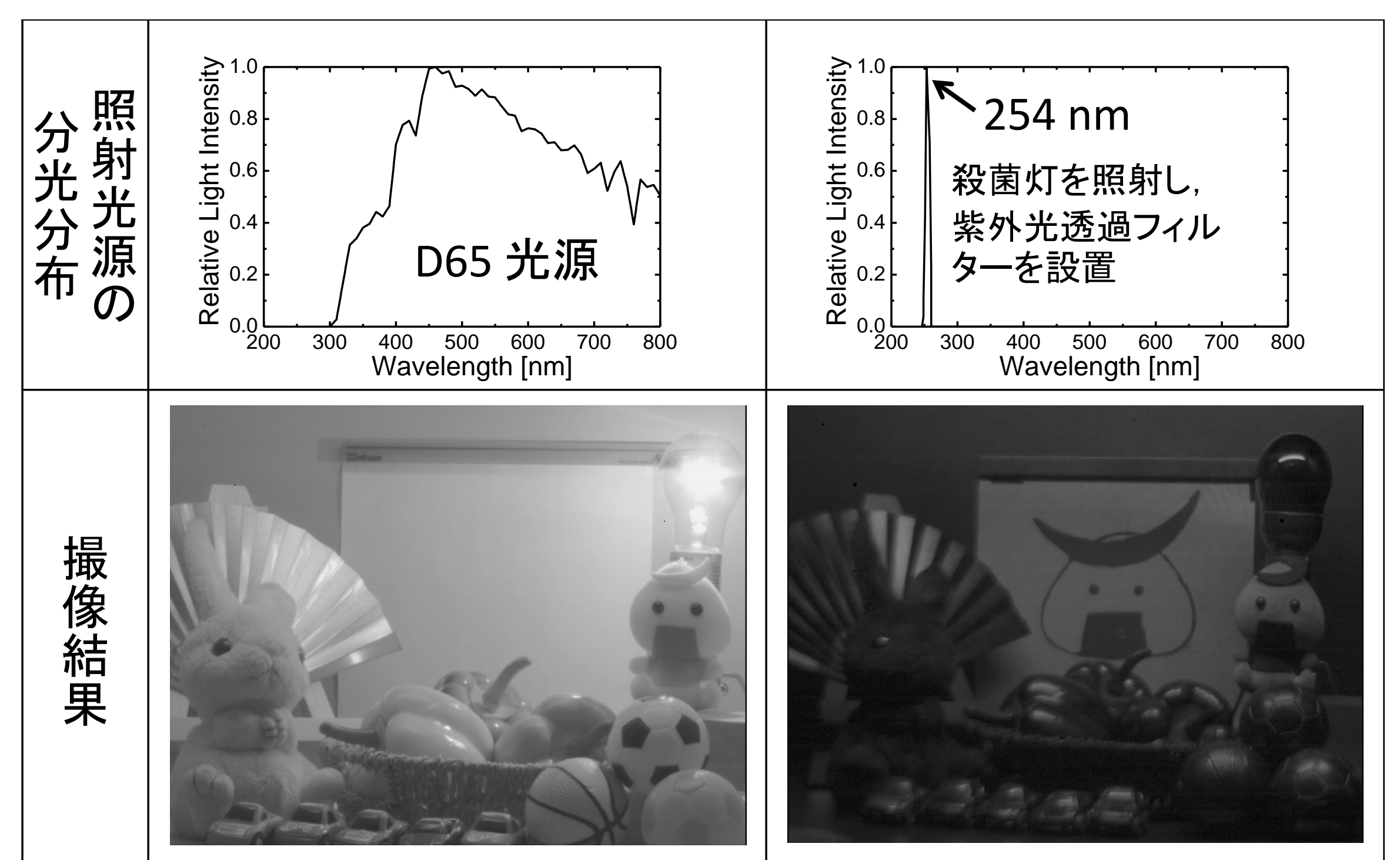
3. 広光波長帯域・高感度・高信頼性光センサ

紫外-可視-近赤外光帯域に感度を持つ撮像素子は、生化学、医療、環境、素材、エネルギー、セキュリティなど幅広い分野で利用されています。

原子レベルに平坦化したSi表面に、薄く均一な高濃度不純物層を形成することで高い紫外光感度を実現しつつ、紫外光照射に対する特性劣化を抑え、200~1100nmの広光波長帯域における高感度化と信頼性の向上を同時に達成しました。



開発したフォトダイオードの断面構造



原子レベル平坦化Si表面と従来Si表面

開発したイメージセンサによる撮像例